

会 議 録

会議の名称	平成29年度第2回行田市総合教育会議
開催日時	平成29年11月17日(金) 開会：午前9時30分 閉会：午前11時10分
開催場所	行田市産業文化会館 2A会議室
出席者(委員) 氏名	工藤正司市長、森郁子教育長、岸田昌久委員、 鹿山高彦委員、増田雅久委員、大久保英子委員
欠席者(委員) 氏名	なし
事務局	学校教育部：門倉学校教育部長、佐藤学校教育部次長、 諸貫教育総務課長、満井学校給食センター所長 金野学校教育課主幹、白井教育総務課主幹 生涯学習部：吉田生涯学習部長、中島文化財保護課長 総合政策部：樋口総合政策部長、岩田企画政策課長、 川上企画政策課主幹、福田企画政策課主事
会議内容	議事 (1) 学力向上について (2) 学校ICTの推進について (3) その他
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 総合教育会議構成員名簿 ・ 総合教育会議席次表 ・ 学力・学習状況調査を活用した学力向上の取組 ・ 第2回行田市総合教育会議 補助資料 ・ 資料1 全国・埼玉県学力・学習状況調査結果等 ・ 資料2 学校ICTの推進について ・ 資料3 学校のトイレ工事についてのアンケート ・ 行田市教育大綱 ・ 行田市総合教育会議設置要綱
その他必要 事項	傍聴者 1名

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 市長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、次第の3「議事」に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて確認させていただく。本日の会議は、議事の中で個人情報を取り扱う予定がないことから、原則公開とさせていただく。また、会議録の作成は要点筆記とし、委員名を明記の上、市政情報コーナー及び市ホームページにおいて公開させていただく。 ・それでは、本日の「議事」に入る。進行については、要綱第4条第1項の規定により、会議の議長は市長が務めることとなっていることから、ここからは工藤市長に議事の進行をお願いする。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。はじめに、議事の（1）「学力向上」について、事務局から説明をお願いする。
事 務 局	<p><資料1により説明></p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から「学力向上」について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いします。
増田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの作り方についてであるが、授業中に先生の話聞きながらノートを書くと、ノートに気が向いてしまい、先生の話聞き逃す傾向がある。ノートを作ることが目的となってしまうと、話を聞かなくなってしまう。家庭学習においては、自分のペースでノート作りが出来る。先生が話をしているときは話を聞き、ノートに書く時間を先生が設けるなどの工夫をしたほうがよいと思う。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> ・教員も子どもたちに書く時間を作るようにしながら授業を進めているが、話を聞くときは集中して聞く、ノートを作るときはノートを作ることを含めて指導を定着させてまいりたい。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上について総合教育会議で取り上げられたのは昨年11月の会議である。その際に、パワーアップサポーターを有効に活用してほしい、児童生徒の状況を把握する仕組みづくりが必要である、家庭と学校の一体感を高めてほしい、なぜ成果が上がらないのか把握する必要がある、根本的な対策をとる必要がある、優れた部分については積極的に取り入れる姿勢が必要であるという意

	<p>見が出ていた。これまでの取組を聞くと、そのことに対応した取組がなされていると感じた。職員が秋田県の取組を視察したと聞いている。また、秋田県からも教育研究所の所長が来られたということで、教育者の熱意というものが行田市の教員にも伝わり、行田市は様々な努力をしていると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1についてであるが、県の平均点を100とした場合の数字であり正答率ではないため、誤解を招くのではないか。2ページ以降は正答率で書かれている。学力ということを考えた場合、県平均点を目指すことも必要であるが、学力が向上しているかどうかを見る必要がある。また、学力調査の総括をホームページなどで公表してもらいたい。近隣市は県平均ではなく、正答率で公表している。良い面も悪い面も市民に公表することが必要である。プレゼン資料の28ページ、学力が伸びている子の割合が74.4%となっているが、資料1の2ページでは平成29年度に成績が下がっているのはどういうことなのか。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> 問題自体が難しく、県平均も行田市も下がったということか。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> 点数は下がっているが、問題自体も難しかったため、県平均及び市平均も下がっている。5年生の算数の伸びは、去年の4年生の時に比べて伸びが見られた子どもたちの割合である。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査の正答率では前年度と今年度の比較ができないということになると思うが。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> 同じ子どもが前年度から今年度にどの程度伸びていることを調査することが県の学力調査の趣旨であることから、このようなグラフとなっている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 一つの基準がなければならない。年度によって問題の難しさにばらつきがあっては良くない。プレゼン資料の28ページと資料1の2ページのグラフは矛盾しているのではないかと感じてしまう。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> 正答率ではなく、県平均を100としての差を資料1の1ページに示させていただいた。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> 平均点も大事であるが、個々の点数も大事である。年ごとに問題の難しさにばらつきがあると、学力調査の意味がない。

議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県平均の上か下かを見るよりも、正答率を重視したほうがいいのではないか。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ そのように表を修正させていただく。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料 1 の 9 ページには、層ごとのレベルを出しているが、層ごとの人数がわからない。いくら学力が上がっていても、学力が上がっていない人数が多ければ平均点が下がってしまう。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本資料は県から市に送付された資料となっており、層ごとの人数は把握できない。分析結果については、今後ホームページへ掲載する予定である。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 点目として、学力向上のためには、脳が健康的に活動できなければならない。そのためには、脳が必要としている栄養素をきちんと脳に届けることが重要である。現在、発芽玄米を学校給食に取り入れているが、これは脳の栄養源であるブドウ糖を持続的に供給するという点で優れた食材であると思う。また、学力の高い生徒はそうでない生徒と比較して食べている物に違いがあるというデータがある。野菜や魚を多く学校給食のメニューに取り入れてはどうか。2 点目として、脳科学的に見て、男子の脳と女子の脳には違いがある。男子に適した教え方、女子に適した教え方を行っていくのも一つの方法である。また、女子は同じ年の男子より聴覚が優れていて、小さな音にも敏感である。一方、男子は教員の静かに話す声がよく聞こえず、どうしても注意が散漫になりがちである。学力が伸びない子や注意が散漫な男子に注意を払い、「きちんと聞いているか」と配慮することで学力が向上する可能性がある。補助の先生についても横や後ろからささやくようにアドバイスするよりもアイコンタクトを取って話したほうが効果的だと思う。3 点目として、学校教育は高校受験や大学受験を見据えた K I T（知識・情報・技術）に偏りがちと言われているが、これからの社会に求められているのは、K I T に加えて C I S（人と人をつなぐコミュニケーション・相手の立場になって考えることができる想像力・無から有を作り出すのに不可欠な感性）である。そのためには美しい音楽や芸術、文学に接したり、大自然に触れたりすることが重要である。また、大自然の中に数学の持つ美しさを見出すと子どもたちはワクワクする。そうすることで数学が好きになり学力も向上するのだと思う。

佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1点目の脳に与える影響について、朝食を食べない子どもがクラスに1、2人いる。その子たちの様子を見てみると、落ち着きがなかったり、集中力に欠けたり、学力も伸び悩んでおり、改善が必要なのではないかと感じている。2点目については、例えば特別支援学級ではきらきらサポーターを配置しているが、話しかけ方に配慮するなど、より対応を強化していく必要がある。3点目の学力向上について、1番の目的は、子どもたちに生きる力を身につけさせることである。来年度から道徳が順次教科化される。行田の子どもたちは音楽、図工も頑張っており、素晴らしい成績を収めている。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事をしてこないというのは我々の時代ではなかった。給食センターでも栄養のバランスを考えてもらっている。子どもたちも給食はおいしいと言っている。また、数学については、興味を持たないと飽きてしまう。「なぜ」という観点から入れば子どもたちも興味を持つのではないか。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発芽玄米の話が出たが、抵抗がある子どもたちもいると思っていたが、実際には美味しいという声が多いと感じる。また、PTAには参加するが、その後の懇談会は参加せず帰ってしまう親が多いのではないか。そのため、教員が家庭学習について説明をしても、親が聞いていないと家庭学習ができない。教員、親、子供が連携することで、学習の向上につながると思う。秋田県の一人勉強ノートとはどういうものなのか。資料8ページの小学4年生から5年生の時は点数が上がっているが、6年生になると、下位のレベルが下がっている。5年生から6年生になってついていけなくなる子が多くなっているのだと思う。パワーアップサポーターがどの程度サポートしているのか。県平均を100とすると、超えているのが中学生の国語のみである。このあたりを見直す必要があるのではないか。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校によって、家庭学習についての説明会をPTAとは別に開催しているほか、学校だよりに掲載し、啓発しているところである。授業参観にはほぼ全員が来ているが、懇談会になると半数程度に減ってしまう傾向がある。懇談会でも重要な話をしているので、今後も各学校に呼びかけてまいりたい。2点目の一人勉強ノートについてであるが、行田市の自主学習ノートと全く同じものであり、家庭学習でも目当てと振り返りを行い、学校と同様のルーティーンで学習を行うものである。3点目の高学年の点数の落ち込みについてであるが、パワーアップサポーターについては、

	<p>現在、3・4年生のみについている。放課後の補習を行っているが、下校時刻や帰りの安全性などの問題もある。</p>
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスによって授業の雰囲気には差がある。静かで集中した授業の実現をしてもらいたい。また、市内でも研究推進校があるが、実践の成果を校長と教科主任しか見ることができない。もっと多くの教員に参加していただきたい。
佐藤次長	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が研究成果発表会を見に行くと、その時間帯が自習になってしまうこともあるため、その点も鑑みて検討してまいりたい。若い教員も参加率が増えてきている。ただし全員が参加することができないため、校内研修で広めてもらうことをお願いしている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ローテーションで行ければよいと思う。質の高い事例は大勢の教員に勉強してもらいたい。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果発表会の録画映像はあるのか。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・映像は県の総合教育センターにあるが、良い授業の雰囲気、緊張感は伝わりにくい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営は児童・生徒の学力向上だけではないが、確かな学力を身につけさせることは非常に重要であり、本市にとって喫緊の課題である。教育委員会と教育現場の校長及び教員の一層の連携を図り、分析結果による弱点克服のための取組を徹底するようお願いする。県内トップクラスの成績が収められるよう、全力で取り組んでいただきたい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、議事の（２）「学校ICTの推進」について、事務局から説明をお願いする。
事務局	<p style="text-align: center;">＜資料２により説明＞</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> ・ただいま事務局から「学校ICTの推進」について説明があったが、ご意見やご質問があればお願いする。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・大型モニターの導入については、多額の寄附をいただいた。子どもだけでなく、教員にも大切に使用してもらいたい。寄附していただいた方の名前は入れるのか。

諸貫課長	<ul style="list-style-type: none"> 匿名であるため、寄附により整備されたと表示する。
岸田委員	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末であるが、教員も子どもたちも活用している。税金も使用しており、市議会議員の同意もなければ使うことができないものであり、多くの方々の思いが込められている。プログラミング学習もあり、今後、学習指導要領の改訂により、アクティブラーニングが導入されるため、最大限有効活用してもらいたい。
鹿山委員	<ul style="list-style-type: none"> ICTを導入することで、教員が作成した資料など多くの情報を共有できる。問題となっている長時間勤務の解消にも役立つのではないかと思う。子どもたちの健康も考えて、SAR値や画面の大きさなどを考慮してもらいたい。
諸貫課長	<ul style="list-style-type: none"> 機器の電磁波などの影響も含めて選定していきたい。
大久保委員	<ul style="list-style-type: none"> 算数では黒板に書くよりも多くの計算問題が解ける。体育ではマット運動の際にタブレットで撮影したものをしているが、他の子が運動をしているものは見ていない。子どもたちのコミュニケーションが少なくなってしまうデメリットも感じた。5年で更新となっているが、いくらぐらいになるのか。
諸貫課長	<ul style="list-style-type: none"> 全てリースで行っており、学校のICT機器全体としては、約9,000万円弱となっている。また、老朽化した無線LANなどの入れ替えが上積みされる可能性があり、経費の増加を抑えることが課題となる。
増田委員	<ul style="list-style-type: none"> 牛肉の識別番号を調べる授業を見学したが、楽しく学ぶことができ、自分で調べられる面白さがある。デメリットとしては、機器がフリーズしてしまうと授業が中断してしまう。また、デジタルの比重が高くなると、書くことによって覚える授業でのバランスや、分野によっては教員の負担が増えてしまう可能性もあることなどが懸念される。
議長	<ul style="list-style-type: none"> 南河原小学校を見学させてもらったが、スピード感があり、教員の負担は少なくなっているのではないかと感じた。秋田県ではタブレットを家まで持ち帰り、それで宿題を行っている学校もある。増田委員の意見にもあったが、書くことが置き去りになってしまうのは良くない。南河原小学校に続き、来年度、南河原中学

	<p>校に導入予定であるが、間違いなく学力向上に有効であると感じる。</p>
<p>教 育 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校で学力向上については危機感をもって取り組んでおり、教員の本気度も少しずつ上がっている。本日いただいた貴重な提案について、取り組めるものから実践し、各学校に指導、支援をしてまいりたい。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、議事の（３）「その他」とあるが、事務局から何かあるか。
<p>事 務 局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料３として、学校トイレについてのアンケートを実施した。対象は平成２８年度に工事を実施した学校のうち、埼玉小学校、太田西小学校の５、６年生である。トイレのイメージや使いやすさなどは概ね好評であるが、我慢しなくて済みそう、周りの目が気になる点など意識の問題として変わっていくのはまだ時間がかかる。また、自由記載について、埼玉小学校では体育館や屋外トイレは好評である一方、太田西小学校の体育館トイレが耐震工事及びトイレ改修を実施していないため、不評であった。トイレ改修にかかった費用であるが、総額約２０億円となっている。水道料金であるが、節水型のトイレになった効果が表れている。改修前の平成２４年度と改修後の平成２８年度を比べても小学校で約４３０万円、中学校で約８５０万円、年間で１２８０万円の削減効果が出ている。水量の差においても中学校で５４．５％減、小学校で２４．４％減という効果が表れている。キレイ化だけでなく、こうした経費削減の効果があつた。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校トイレは衛生面で嫌がる子も多く、我慢することは体に悪いということで改修に踏み切ったわけである。徐々に子どもたちに衛生面でも問題ないことが定着していけばよい。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、これにて議事を終了する。教育委員の皆様には、スムーズな議事進行にご協力を賜り、感謝申し上げます。これをもって、議長の職を解かせていただき、事務局に進行をお返しする。
<p>事 務 局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・以上をもって、行田市総合教育会議を閉会する。 <p style="text-align: center;">＜ 閉 会 ＞</p>